

目指す学校像	元気いっぱい 笑顔いっぱい 感動いっぱい 春野っ子
--------	---------------------------

重点目標	1 学ぶ楽しさや喜びを味わい、互いに磨き合うことができる学校 2 安全に配慮し、美しく整えられた環境づくりがなされている学校 3 家庭・地域との連携を深め、地域と共に生きる学校
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和7年2月3日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語科では、漢字の使い分けや情報同士の関わりをとらえること、文章にまとめる問題、指定された条件の読み取りに課題が見られた。算数科では、データの活用、面積の大小を判断し、理由を記述する問題において特に課題が見られた。 ○市の学習状況調査においては、「思考判断表現」や、「話すこと書くこと」に課題が見られた。 (課題) ○中学年での無回答数が高い。国語算数ともに、全無回答の半数において、その2/3が、およそ1割の児童によるものであった。全体への指導とともに、少数の児童への個別対応を進めていく必要がある。 ○主体的に学習に取り組んでいると感じている児童は多いが、成果が見えてこない。	・ 学びの自律化・探究化に向け授業改善、情報端末の活用 ・ 学ぶ楽しさを実感し、学習習慣を身に付ける教育活動の工夫・改善	①朝学習の時間を、全学年で計画的に設定し、週報や日報を通じて、確実に実施する。 ②高学年での情報端末の持ち帰りを開始し、個に応じての反復練習を行うとともに、自らが主体的に学習に取り組む習慣を身に付ける。	①学校運営評価の保護者アンケートにおいて「基礎学力を高めるために工夫した学習指導を行っている」について肯定的な回答をする保護者の割合が80%以上となったか。 ②高学年での情報端末の持ち帰りの実施状況調査を行い、持ち帰り率7割、利用率7割を達成する。	①朝学習の時間における基礎学力の定着を図る学習はほぼ計画通り実施できた。アンケート結果は、72.6%となり、昨年度をやや下回った。 ②高学年とかがやき学級での端末の持ち帰りは、約9割実施できた。利用率は、約8割であった。	B	①朝学習の時間における基礎学力の向上(ICT, 読書, ドリル)の取組は定着してきたが、今後は、質的部分の向上を工夫していく。 ②端末の取り扱いにも慣れ、活用が進んでいる。今後は、紙と端末の効果的な使用場面について、工夫改善を行う。	・ 勉強会は、どのように募集や声かけをしているのか。よい取組なので、引き続き、取り組んでほしい。 ・ 特に、活字ばなれが言われている今、読書の時間は大切だと考える。来年度は、より一層の朝読書の拡充を望みたい。落ち着いた一日の始まりという点でも有効だと思う。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均をやや上回っている。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童のけが、救急搬送を伴うもの、交通事故は0件であった。 (課題) ○各学級に在籍する、指導に配慮を要する児童に対して、支援の拡充を求める地域・保護者の要望が多い状況である。さらなる支援が必要である。また、その実現のための組織づくり、校内環境整備を推進していく必要がある。	・ 児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制充実環境整備 ・ 安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実	①教育相談日の日数を増やし、専門職との連携を深め、保護者への需要に対応していく。 ②校内教育支援センター「つながる〜む(Sola ルーム)」を設置し、保護者に周知することで、保護者の需要に対応していく。	①教育相談の研修を充実することで、教員のカウンセリング技能の向上をはかる。また、専門職とも連携を図り、児童・保護者への支援体制を充実させる。教育相談日の利用者数を昨年比3割増加する。 ②「つながる〜む」の利用希望に対応し、アンケートにおいて、肯定的な評価を得ることができる。	①教育相談の研修を行い、教員の指導力向上を行うことができた。また、SC、SSW、さわやか相談員とも定期的に情報交換を行い、ニーズの把握に努めた。教育相談日の周知方法を工夫したが、利用者数は、昨年度とほぼ同程度であった。 ②「つながる〜む」の利用を開始し、継続的な利用を行うことができた。	B	①次年度は、スクリレ等により、教育相談日の周知を行い、利用率の向上を図る。 ②通級指導教室ともに、「つながる〜む」の本格運用に向け、教室環境を整え、周知方法を工夫する。	・ 教育相談体制のより一層の充実を図ってほしい。以前はもっと活用されていたように思う。そのためには、広報や周知の工夫が必要である。 ・ 登下校中のトラブルは、気を付けていってほしい。遅くまで外で遊んでいる子どもたちも時々、見られる。地域の声かけも、重要である。
3	(現状) ○目指す児童の姿について、PTAや地域の方々との共通理解を図り、検討を積み重ね、春野小の児童を地域全体で育てていくことを共有した。 (課題) ○PTA役員会や学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域に広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに検討し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けて取り組む。	・ 目指す児童の姿を地域全体で共有するための教育活用、教育活動の充実 ・ 児童の自律と望ましい人間関係の構築につながる。継続的な取組に向けた異学年交流、集団活動の充実	①PTAや地域行事に、本校職員が参加することで、学校とPTAの連携を強化し、保護者・地域と一体になって児童を育てる姿勢を明確にする。 ②学校行事やお手紙等について、アプリやHPで周知し、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①教職員が、一人年1回以上、PTAや地域の行事に参加する。 ②学校運営評価の保護者アンケートで、「学校では家庭への連絡をきめ細かく行っている」と回答する割合が80%以上となったか。	①教職員のPTA・地域行事への参加(一人年一回以上)を推進することができた。 ②スクリレ配信による広報の工夫を推進し、定着させることができた。アンケートの肯定的評価は、84.2%であった。	A	①PTA・地域行事への参加が増えたのは、とてもよかった。引き続き、協働意識を高めていきたい。 ②デジタル化をさらに、推進することで、保護者・利用者の利便性を高めていく。	・ 様々なことが「見える化」されてきており、とてもよいことである。連携がより円滑に進み、トラブル等の未然防止にもつながっている。
4	(現状) ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法や学習活動について、研修や研究授業等においても、活用事例を蓄積してきた。 (課題) ○ICTの活用や学習指導の工夫について、教員間で取組や意識の差が見られる。誰もが、無理なく働き甲斐をもって、学び続けることができる職場環境へと工夫改善を進める。	・ 一人ひとりが持ち味を発揮し、強みを発揮し、弱点をカバーしあう、誰もが居心地のよい集団の創造	①年間を通して組織的にエバンジェリストと研究主任を中心として、全ての教員の指導力を向上させる。 ②個人研究型の校内研修を推進し、一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けて、研究授業・協議会をブロック学年で1回ずつ実施する。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②個人研究型の校内研修に取り組んだことで、教職員へのアンケート結果において、80%以上の教員が肯定的な評価を達成することができたか。	①ICTやタブレットに関する教員の指導力向上のための研修を3回実施し、キャンパ等の活用が進んだ。また、研究授業等で、積極的に活用を行ったことで、効果的な使用方法についての理解が深まった。 ②個人研究型の校内研修については、公開授業は実施できたが、研究授業については実施できなかった。初めての試みであったが、肯定的評価は80%で、概ね好意的であった。	B	①ICTやタブレットに関する指導方法の工夫改善研修を引き続き、実施し、指導力向上を行っていく。また、ICT部を中心に、公開授業を行うなど、周知方法について、工夫改善を図る。 ②教員自らが主体的に学び、深めていく校内研修の方法や内容について、より一層の研修の工夫改善を行う。	・ 教師がゆとりをもってこそ、よい教育や指導ができるものと考えている。引き続き、教師にゆとりをもたせてほしい。 ・ ICT・タブレットの活用は今後、ますます必要になってくる。紙と併用して、それぞれの良さを生かしてほしい。